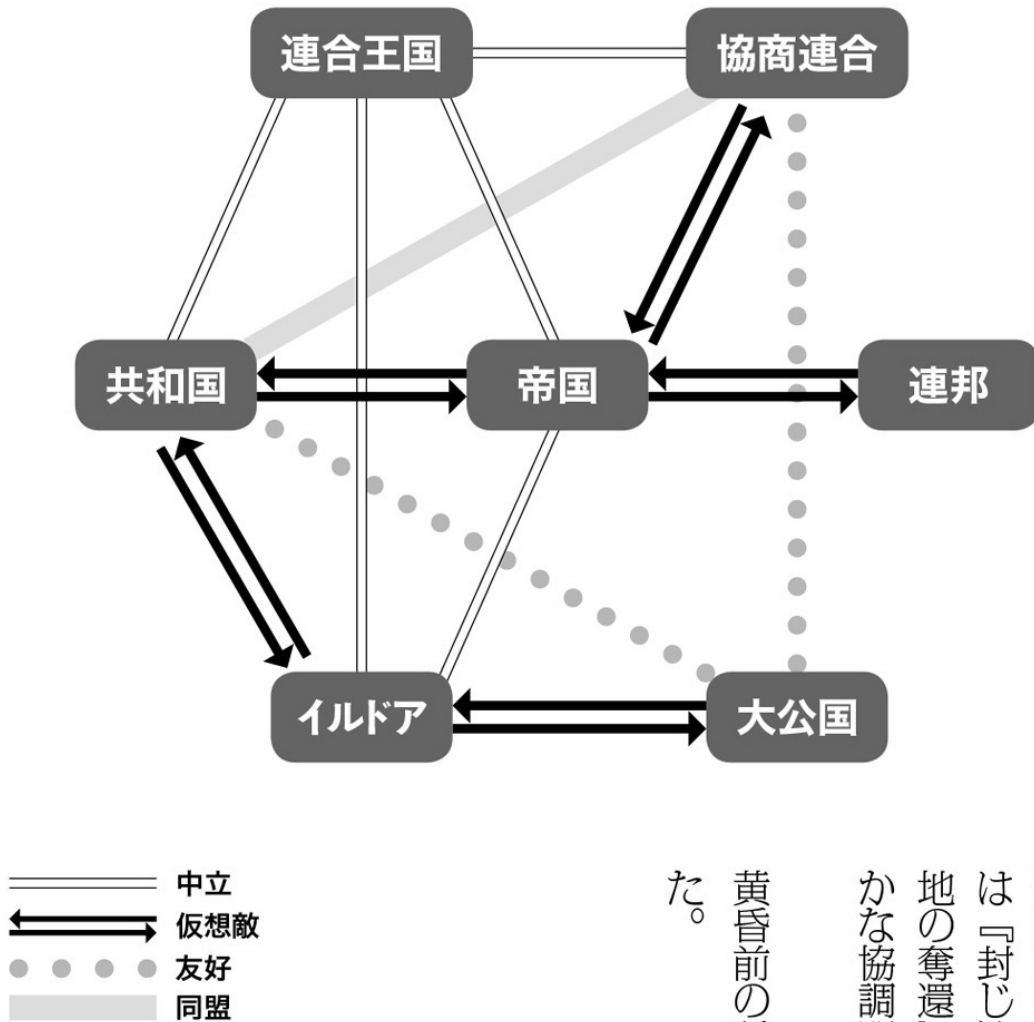


外交相関図

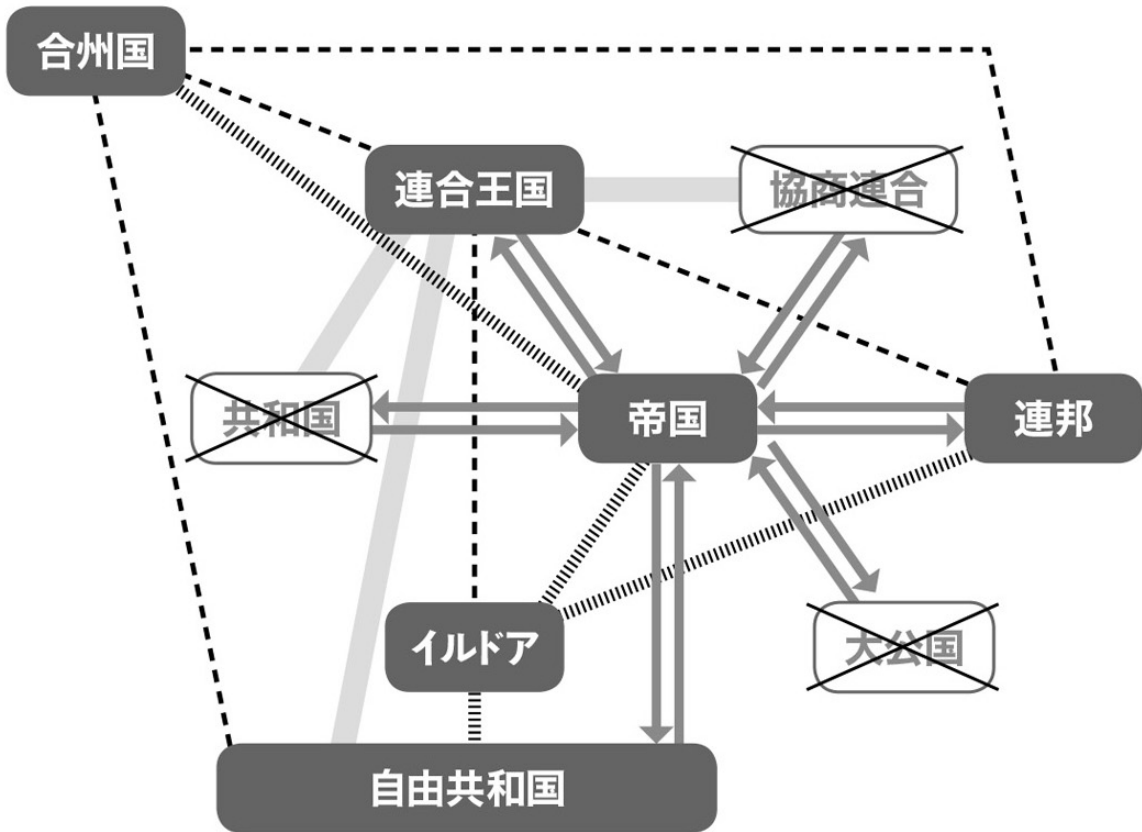
①戦前



新興、あるいは最後に興った
列強たる帝国に対し周辺諸国
は『封じ込め』ないし『係争
地の奪還』を目標とする緩や
かな協調関係を構築。
た。
黄昏前の穏やかな時間であつ

▼図 2

②大戦中期



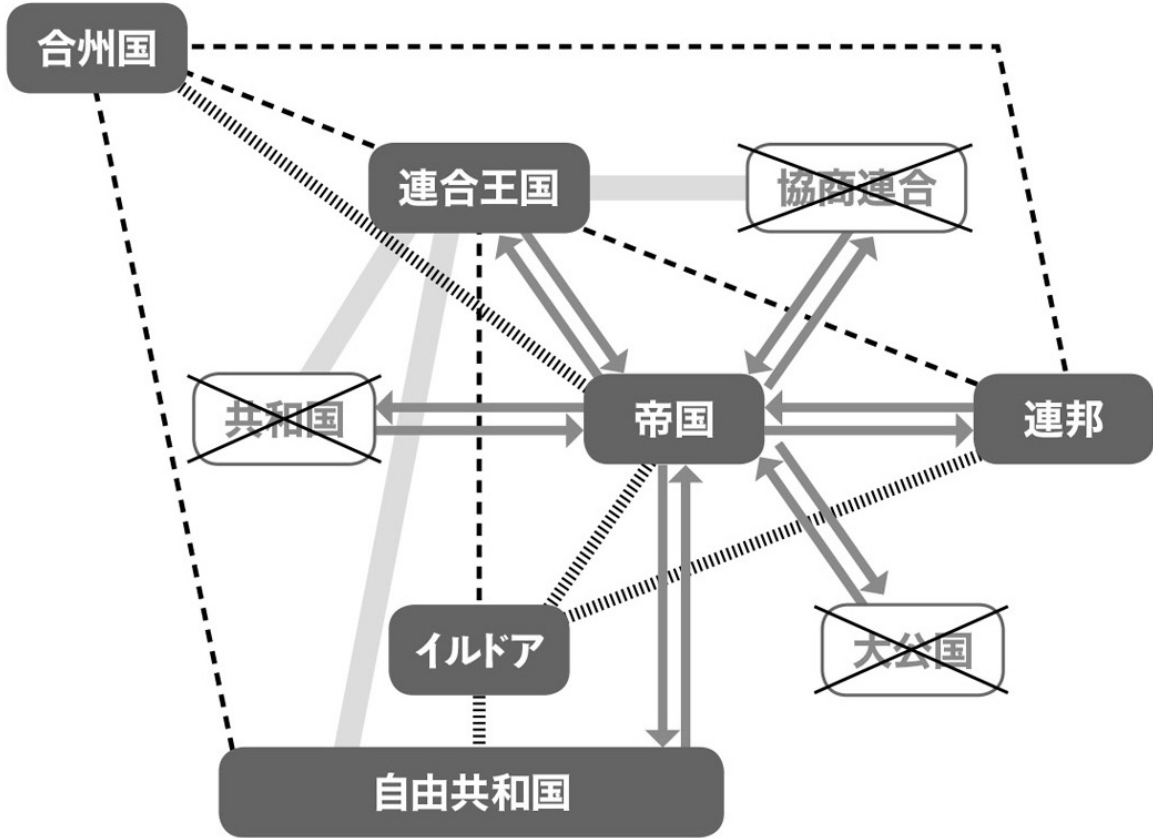
- ⇄ 交戦
- 外交関係
- - - 積極的な外交接近
- 同盟
- ⊗ 占領された国

帝国最良の時代。帝国に対する封鎖を実力で打破。共和国・協商連合・大公国を占領し、各方面においても軍事的優位を保持。

対抗勢力にとってみれば、必要の要請により戦前の曖昧な関係を深化させざるを得ない時代である。

▼図 3

②大戦中期



- ↔ 交戦
- ||||| 外交関係
- - - 積極的な外交接近
- 同盟
- ☒ 占領された国

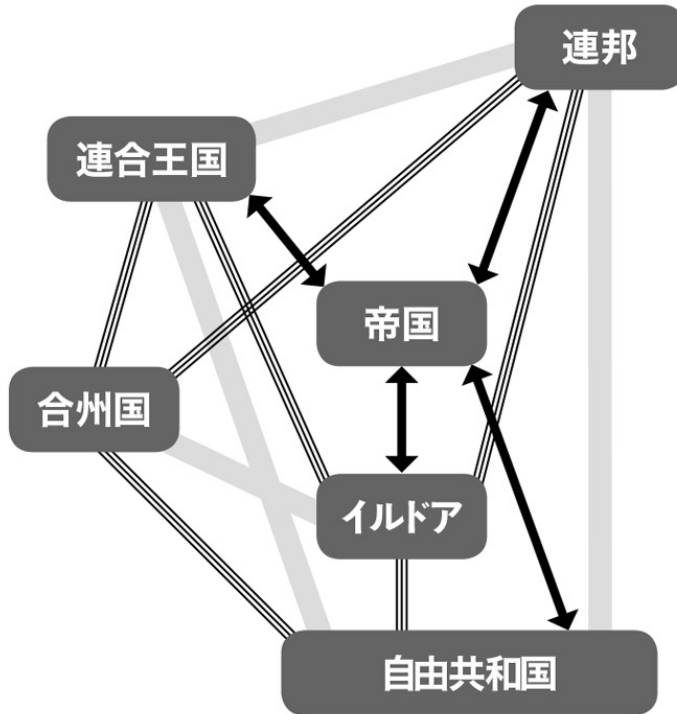
帝国最良の時代。帝国に対する封鎖を実力で打破。共和国・協商連合・大公国を占領し、各方面においても軍事的優位を保持。

対抗勢力にとってみれば、必要の要請により戦前の曖昧な関係を深化させざるを得ない時代である。

総評

外交へコストを投じなかった帝国は、その有り余る腕力を以て、その要求を貫徹せんと動き続けた。その先に、自身の望む『平和』があると信じたがゆえに。しかし、得たのは望んだのとは異なる未来。帝国は文字通り世界の敵となり果てた。今、総力戦の焰ほのおだけが広がっていく。

④現状



↔ 戦闘状態
 — 同盟
 ≡ 深い外交的關係

帝国は、世界の全てを敵に回すことを決意す。